

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

始



特105

4631

阪高醫學學校長醫學博士

大阪病院長佐多先生肖像

藥劑顧問 救急當調劑 濟生

濟生館



自序

人誰カ生ヲ愛セザルカ其生ヲ愛スルヤ又壽ヲ欲ス然リト雖モ血肉ノ身爰ゾ病ナカラシヤ
諺ニ人身ハ病ノ器ナリト宜ナル哉苟モ病有レバ醫藥ニ依ラズシテ之ヲ治スル、術ナカル
可シ方今醫術漸ク開ケ名醫輩出セリト雖モ山陬僻隅ノ地ニ在テハ醫師ニ乏シク病アルモ
治療ヲ施スノ至難ナルガ故輕キ病モ重クナリ遂ニハ不治ノ大患トナリ尙ホ貧者ニアリテ
ハ金力ニ乏シキ爲メ醫療ヲ加ヘズ徃々非命夭折ノ不幸ニ陥入ル者アリ豈ニ憫ムベキノ至
ナラズヤ爰ニ於テ

畏レ多クモ

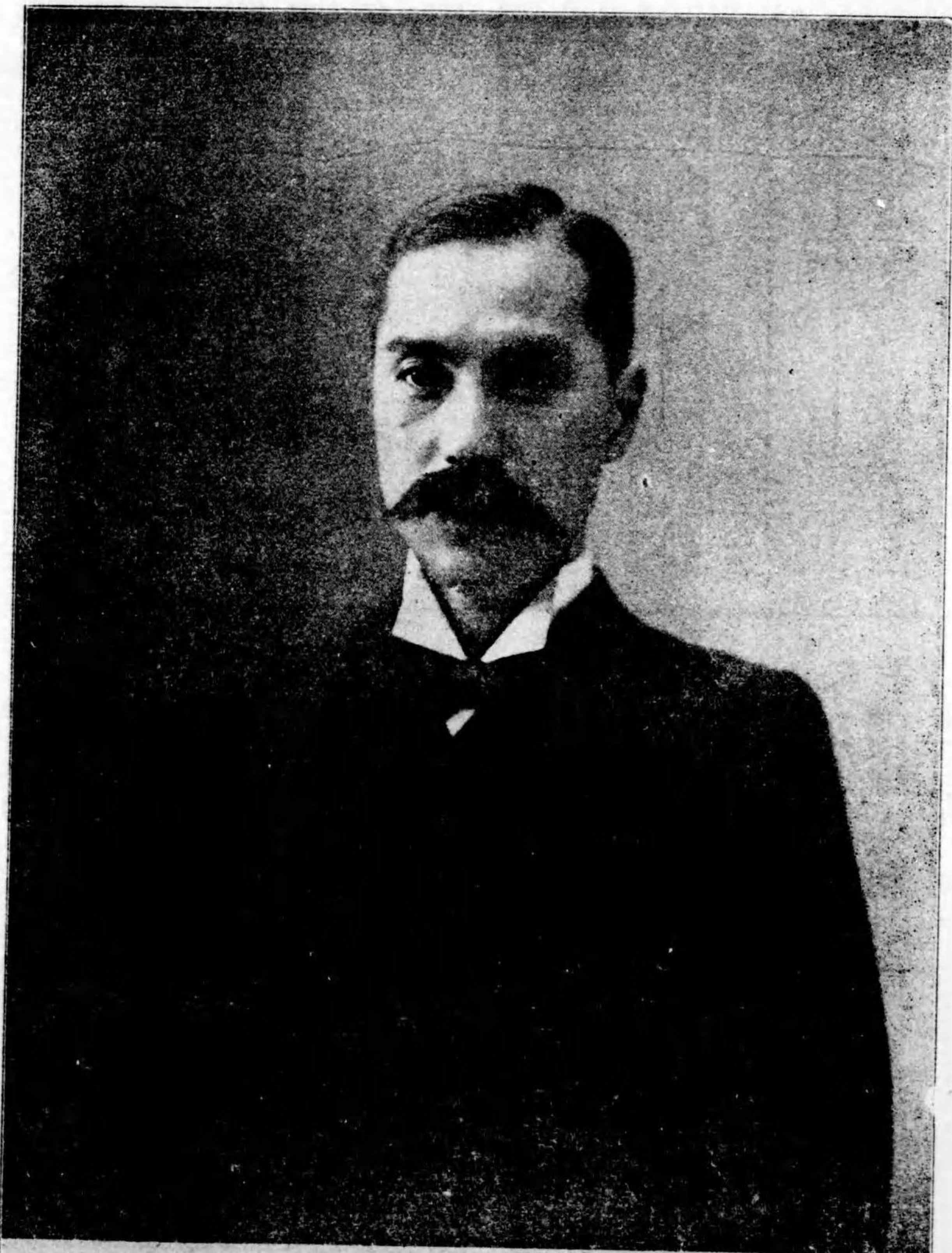
皇后陛下ヨリ東京ノ慈惠院へ恩賜サレタル御令旨ノ御辭ニ曰ク

病ひは萬の苦しみを生ずる本にして其の不幸は貴富なる人も同じことなるが分けて負し
き者は病に罹りても醫師の治療を受くることを得ざるに依りて癒ゆべき病ひも癒えず其
身は固より妻子までも不幸に陥入るに至るはまことに哀れむべきものなりと
嗚呼仁慈ノ深キ何ゾ其ノ茲ニ至ルヤ臣民能ク此ノ御令旨ヲ拜讀スル毎ニ感泣セズンバア
ルヘカラズ故ニ編者爰ニ此ノ書ヲ草シ江湖ノ諸彦ニ分ツ所以ナリ宜シク此書ニ從ヒ病源
ヲ極メ一日モ早く治療セラレン事ヲ爾云

編者識

持105
463

大阪高等醫學校長 醫學博士 佐多先生肖像



大正
4. 9. 8
内交

Prof. A. Sata

行105
96

目 録

- 胃病の療法 一
- 感冒の療法 一
- 梅毒の療法 二
- 歯痛の療法 三
- 眼病の療法 三
- 子宮病の療法 三
- ラコリの療法 四
- 虫下しの療法 五
- 疥癬の療法 五
- 霜焼の療法 五
- 溜飲の療法 五
- 寝小便の療法 六
- 脚氣の療法 六
- 火傷の療法 六

- 血の道の療法 七
- 口中病の療法 七
- 耳垂の療法 八
- 疝氣疝癪の療法 八
- モシラミの療法 八
- いんきん田虫の療法 八
- 癩病消濁の療法 九
- 腫物一切の療法 九
- 月經不順の療法 九
- 乳の腫れの療法 一〇
- 腹の痛の療法 一〇
- 暑氣腹痛の療法 一〇
- 腋臭の療法 一〇
- 胃カタルの療法 一〇
- 慢性胃カタルの療法 二

五六
8 H A
交内

腸カタルの療法	一三
胃の痙攣療法	一五
下痢を止むる法	一五
便秘を治する法	一六
鼻血を止むる法	一七
黄疸の療法	一七
腹膜炎の療法	一八
肋膜炎の療法	一九
肺病と肋膜の關係	二二
腦充血の療法	二三
腦貧血の療法	二三
頭痛の療法	二四
心臓病の療法	二五
膀胱カタルの療法	二六
レウマチスの療法	二七

治療調製薬法

●胃病の療法

同 私しは胃病にて困りますが、如何に致したならば宜しいでしようか、其療法を教え
て下さい

答 胃病もいろいろ通りがあるから一樣にはゆわれませんが、輕症の胃病には苦味丁幾
一、五(三分七厘)重炭酸那篤留膜一、〇(二分五厘)機那丁幾二、〇水〇〇、〇(五勺)
以上混和し一日三回に分服すれば宜しい尙くわしき療法は後ちに記してある慢性及
び急性のといてある所に對照して御覽なさい。

●感冒(風邪風引の事)の療法

凡そ熱病は引風より起るものにて又熱病は種々の原因となり甚だしきは急性肺炎を
起し俄かに死することあり所謂(インフルエンザ)にて死するのは皆急性肺炎に據る
ものゆる誠恐れざるべからず。

同 其徴候はよく了解しましたが薬は何を用ひたらばよいでせうか。
答 醋酸安母紐膜液八、〇甘硝石精二、〇機那丁幾二、〇の三薬を混和して一日量三回に

痔疾の療法	二六
育兒問答	二九
産時と産後の心得	三三
産後母體の心得	三三
産後生兒扱ひの心得	三四
人工呼吸術應急手當の心得	三五
止血法	三九
攝生法	四三

目次了

分服すればよろしい。又はサリチル酸曹達一匁を二回に分服しても効がある者です

●梅毒の療法

問 梅毒といふものは世間に病んでをる方が澤山ありますが。これには何が一番適切でありますか

答 梅毒には一期二期三期と種類が三とほり分れてをりますが其中で一番性質のわるい第三期梅毒乃ち下疳横根腺病梅毒症結核骨膜等の梅毒より起る諸症痲病消渴陰門たゞれ等には沃度加留謨一、〇 苦味丁幾一、〇 水一〇〇、〇の三薬を混和して一日量三回分服すればよろしい。但し衰弱あるものは沃度鐵舍利別(一、〇)を右の薬に加へてよく溶和して後ちに分服する事、尤もこれは水薬であります

問 御蔭でよく分りました。右の御説によれば只水薬ばかりの様ですが別に散薬は用ひませんでしょうか

答 いかにも散薬は用ひます散薬としては。甘汞〇、〇三 大黃二、〇 サルサ根末二、〇の三薬をよく混和して一日量三回に分服すれば宜しい

問 洗ひ薬も教えて下さい

答 昇汞水にて洗滌すれば効があります

●歯痛の療法

問 歯の痛むには如何なる薬が適切でありますか

答 丁香油(正眞のもの)を綿にしゆまして。痛む歯の(ウロ乃ちアナ)に入れて置きなさい又ケレチソー或は龍腦を粉末にして暫くアナにつめて置いても。ムシ歯一切に効があります

●眼病の療法

問 眼病には如何なる療法が適切でありますか

答 眼病には硫酸亞鉛〇、一〇 蒸餾水五〇、〇の二薬をよく溶かして一日二回點眼しなさい。但し一日二回以上は用いてはなりません。尤も之れは眼病一切によろしいが但しソコヒトリメには効能はありません

問 洗滌薬は何が宜しいでしょうか

答 洗ひ薬には硼酸一、〇〇 水一〇〇、〇を能く溶かし。之れを炭火にて少し温め。ホ

チサンの溶けた三を度として。一日三四回眼を洗ひなさい。又眼病も逆上するものに付き。内服薬として腦病の薬餌を用いなさい

●子宮病の療法

問 私は永年子宮病で難儀致して居るものですが。此病氣には如何にしたらば宜いでし
ようか。其療法教えて下さい

答 それは御氣の毒であります。子宮病には種々療法もあるが。先づ洗ひ薬としては硫
酸亜鉛〇、五水二〇、〇を混和して。子宮洗滌器にて一日に三回あて洗滌なさい。
これは子宮病、玄攣、出血、攣急、糜爛等に効があるものです

問 よく世間の御婦人方が同病には子宮綿をさしこんで居る方がありますが之れは効力
のあるものでしょうか

答 あります先づ子宮綿の製法は脱脂綿花。衣服等に使用する打延ばしたる綿を粗製炭
酸曹達にて晒し。脂油を脱したるものが薬店にありますから其の綿を單寧酸三、〇
水二〇〇、〇に溶かしたるものに浸し。乾燥するものとす。以上しのび紙と同様の
方法を取らるべし

● チコリの療法

問 チコリには如何なる薬を用いたらば宜いでしょうか

答 此チコリといふ病ひは大概時刻を定めて熱の發するものにて毎日或は隔日に起る故
に發熱前三四時前に硫酸規尼涅〇、五サルチル酸曹達一、〇を一回に服すべし。但
し一週間程引續き服薬をしないといけません。然れば効能がぜひ見へる者です

● 虫下しの療法

問 虫下しには何といふ薬がいゝでしょうか

答 柘榴根皮(ザクロノネノカハ)四、〇を燒酎三匁(盃に凡そ一盃)程とを混和し一回に
のむべし

● 疥癬の療法

問 疥癬の薬は如何でしようか

答 硫黄八、〇スエビ四、〇を種油にて煉りよく其局部にすり付けるべし

● 霜焼の療法

問 霜焼の薬を教えてください

答 ボレーをスキ油にて煉り痛む所にすり付ければよろしい尤も之れはヒ、アカギレア
レ症によし

● 溜飲の療法

問 溜飲には何んといふ薬を用いたらば宜しきや

答 クエン酸マク二、〇酒石酸一、〇重曹二、〇一日二回に分服しなさい

● 寢小便の療法

問 私の小供は三人ありますが一番そをりようの今年九つになる男の子が未だに寢小便して困ります何が根切れのする適切な療法あれば教えて下さい

答 それは御氣の毒です。さぞ御困りでありましょう。これには汗油を少量づゝ水又は湯の中へをとし込み。ともに服薬すべし。凡そ盃に半分位でよろし又寝るときはよく注意して必ず横臥を要し腰部を凍へざる様毛布にて巻くこと肝要なり。さすれば寢小便の癖せは根切れするに疑ひなし

● 脚氣の療法

問 脚氣の療法は如何にしたならば宜いでしようか

答 脚氣には婦人の産前産後及び乳兒の脚氣等にはよく注意し。輕症と雖も決して姑息の治療すべからず。其他は成る可く乾燥の地を撰みて轉地し。食物は消化し易き者を撰みて用ひ。便通を促し午睡を禁じ又男女の交合を堅く謹むのであります

問 夫れには如何なる薬を服用すればよいでしようか

● 火傷の療法

答 硫苦一五、〇 稀鹽酸〇、五 水一〇〇、〇 一日三回に分服すればよろしい

問 やけどには薬は何々がよいでありますようか

答 それは生石灰二〇、〇 鉢に入れ熱湯を入れ善くかきまぜて置き。其上澄を取り之れに胡麻油(適宜)入れかきまぜば。黄色の膏藥となるを以て。之れを塗り付け布にて繃帯して置けば全治します

● 血の道の療法

問 私しは永年血の道がわるくて。苦んで居る者ですが適切な療法あれば何卒教えて下さい

答 血の道には紅花二、〇 サフラン〇、五 沈香一、〇 之れを一合の水五勺に煎じ一日三回に分服すればよろしい

● 口中病の療法

問 口中の病ひは何薬が適切ですか

答 焼明礬四、〇〇 蜂蜜二、〇、〇 清水三合にて混和したるものにて含嗽すれば口中病及び口のくさいには必ず効能があります

● 耳垂の療法

問 私の小供は丁度今年で三年ばかり耳垂で難儀しますが之はどうすれば全治しますか
答 まことに。御こまりでしよう夫れは硫酸麻屈四、〇 大黃末二、〇 この二薬をよくまぜ合はし一日に三回宛分服し尙外用薬としてはチレーフ油を綿に浸し孔を塞ぎ置けば直ります

● 疝氣疝癢の療法

問 疝氣や疝癢には自薬として飲むに何がよろしいか
答 まづ良姜二〇、〇 木香二〇、〇 水二合にて煎じ一日三回宛分服しなさい

● 毛じらみの療法

問 毛しらみの薬は何がいゝでしようか
答 ワセリン油二〇、水銀四、〇を混和し綿にてすり付ければよし

● いんきん田虫の療法

問 畢丸に田虫ができて。悪るがゆくて。たまらないのや。いんきんは直りますか教え
て下さい

答 サルチル酸四、〇 酒精一〇、と溶解したる者を筆のさきでしめす但し塗りつけたる際には。一時しみ痛みはげしき故。なるべく風を入れるべし

● 痲病消渴の療法

問 痲病消渴には如何なる薬を用いれば宜しきや
答 沃度加留謨〇、五。苦味丁幾一、〇。水一〇〇、〇を溶き合せた者を一日三回あて食前に分服すべし尤も本剤は梅毒薬と異なる點あれども分量の異なるなり又洗ひ薬としては硫酸亞鉛〇、五水二〇、〇を混和したる者にて洗滌すべし又は石炭酸一、〇水一〇〇、〇にてもよろし

● 腫物一切の療法

問 できものに付ける外用の薬は何がよろしきや
答 沃度「ホルム」膏を調製して貼付なさい。此膏薬の製法は沃度「ホルム」二、〇 單軟膏五、〇を能く煉り合して製するのです尤も之れは軟下疳創面の防腐薬となるのです

● 月經不順の療法

問 私しは時々月の物がめぐらずして難儀致しますが之には何薬を服用したならば宜しいでしようか

答 薦蒼末二、〇。桂皮末二、〇。丁香末二、〇の三薬をよく混ぜ合して一日に三回あて分服なさい

● 乳の腫れの療法

問 乳のはれには如何なる療法が適切ですか

答 夫れには杏仁末四、〇を黒砂糖五匁にてよく混和して布にのへ貼り替えなさい

● 腹の痛の療法

問 腹の痛みを止むにはどうすれば止まりまするか

答 健質亞那末二、〇。桂皮末二、〇を混じて一回に服薬すれば直ります

● 暑氣腹痛の療法

問 夏向きになると能く腹痛み胸つかへ等することがありますが之れには如何なる薬を調合して飲めば宜しいでしようか

答 龍腦〇、五。丁香一、〇。薄荷油一滴。甘草末四、〇を混和して一日三回に分服しなさい又この薬は酒の二日酔にもよろしきものです

● 腋臭の療法

問 私の親類の者に腋臭を病んで誠に難儀してをる者がありますので願はくば薬を教え

てあげまして。直さしたい者ですが。何んとか適切な療法あれば教えて下さい

答 それは無御こまりでしよう、教えてあげますから一日も早く直さしなさい。腋臭に

は硫酸鐵。枯礬を各等分に混和して。一日六七回わきの下に塗り付け。かくするこ

と一ヶ月たてば必ず効が見へます尤も充分に腋の下を清潔にして毎日洗湯にて石鹼

を以て能く洗ひ決して不潔にしてはなりません

● 胃カタルの療法

問 胃のカタルに急性と慢性とがあるといふ事を兼々御醫者様より聞き及んでをり升が

其療法教えて下さい

答 無論あります急性は暴飲暴食又は不消化物の爲めに起るのは勿論。精神過勞の爲め

に發るのも随分多い

問 其徴候は何が原因で如何なる氣分が致しますか

答 此病氣は最初食慾が進んだり。或は退いたり。不同であるが次第に不進になつて欠

伸を催し嘔吐を催し。時々咽喉が渴き。大便はいつも秘結して體がだるく。氣分が

鬱して時々頭痛の起る事もある。鳩尾のところを押すと少しく疼みを覺へるが原因

問 夫れには如何なる薬を用ひたら全快しますか教えて下さい
答 療法はいろ／＼あるがまづ普通は重炭酸ナトリウム二グラム。苦味チンキ三グラム

問 急性の療法は御蔭様で了解致しましたが又慢性の分は如何に致せば宜しいか
答 又慢性もほゞ急性と同じ様なものであるが。急性のごとく胃に痛みは感ぜず。又渴

問 夫れには如何なる療法がありますか
答 夫れには如何なる療法がありますか。療法は重炭酸ナトリウム二グラム。ペブシネーグラム半。を混ぜてこれを三包に分け

一日三回に分服すれば宜しい

慢性胃カタルの療法

問 私には多年胃カタルで唯今では慢性と極りましたが何とか全治の方法はありませんか
答 専ら原因療法を施さねば全治は六つかしい。即ち酒客には酒を禁じ。甘黨には菓子類を嚴禁しなるべく温浴して皮膚の機能を充盛せしめ常に消化し易い食物を採り苟も極冷極熱の飲料や強酸味多量の脂肪物海藻類の如きは食してならぬ食物が胃中に滞在して消化しない時には醗酵を起して腐敗するものである此腐敗を除くには下剤を用ふるがよいのであります

問 其下剤は如何なる薬を用ひたならばよいでしょう
答 下剤は人工カル、ス泉鹽一茶匙を温湯に溶かして用ふる。又消化をなさしむる胃中の鹽酸の缺乏を補ふ爲めに稀鹽酸十滴位を半蓋の水に滴して食後一時間に用ふる次に胃液の分泌を催ふす爲には苦味丁幾。龍膽チンキ。ホミカチンキの如き苦味薬を半蓋の中に十滴を加へて服用するが一番宜しい

問 又胃の痛みには如何にいたしたらよいでしょう
答 胃痛には重炭酸曹達と次硝酸蒼鉛及び乳糖の合剤が殊に適切であります

問 又胃の痛みには如何にいたしたらよいでしょう

腸カタルの療法

問 私は腸カタルで難儀致して居りますが其療法教えて下さい
答 腸カタルにも急性と慢性の兩方があります

問 夫れでは最初に急性腸カタルの方から御教授を願ひとうあります
答 御尤もなる御尋ねです然らば急性の分より先きに御談し致しましょう急性は急に起

るので、最初は稀に便通があつて、夫れが度重なるに従つて今度は水のやうなものが下り、腹がごろ／＼鳴つて非常に痛むのであります、其原因はいろ／＼あるが大抵は腐敗に傾いた物を食つたり、暴飲暴食の結果腸内に滞つたものが腐敗して夫

れから禍を起すのである。

夫れには如何なる療法が適切でありますか

療法としては一時飲食物を禁じ腹を乾し、下劑をかけて腸内を掃除するのがよろし
其腸内を掃除するとは、ごうするのでありますか

答 即ちヒマシ油一グラム半、薄荷精四分の一グラムを水二グラムに溶かして飲めば腹
の内は清潔に掃除が出来る、汚物の下つた後更に重炭酸ナトリウムベブシネ二グラ
ム、苦味丁幾三グラムを水百グラムに溶かし一日三回に分服するがよい、腸カタル
を起して暴瀉をするとき一時身体が非常に衰へるが、この際滋養物を食したら好から
うなど、また腸の整はない中に物を食するものがある、夫れは怪しからぬ事である
カタルを起したらば流動物の外は一切口に入れぬやうにし、快復期に向つてから徐
徐に固形物を取るやうにせねばならぬ、暴瀉の際は一時絶食するのが一番である
急性の療法は御蔭さまで能く了解致しました、ついでに御面當ではありましようが
慢性の療法も教えて下さい

問 又慢性のものは急性の時に養生を怠るから起つたもので、根を切る事が中々困難で
ある、平生大便が秘結したり又下痢したりするのは腸に故障があるからで、滋養分
を取つても効能が少いからなるべく病勢を進めないやうに食物は流動物を用ひ平素

便通に注意し、下痢があつた時はこれを止めるやうにせねばなりません

胃の痙攣療法

問 私(わたくし)はさしこみで時々難儀致しますが、夫れは何が原因でありましようか又其療法を
教えて下さい

答 されば胃の悪い上に食べ過ぎるとか、不消化なものを食べると時々起るものである
其の前徴は嘔氣を催ふしたり頭痛がしたり、それから腹の中が急にさし込んで来て
堪られなくなる、この際には姑息の手當をするよりも醫師に薬を注射して貰ふのが
一番効能がある、一度注射すると劇しい痛みも忽ち治り、すやく眠れた後大抵癒
るものであるが、若し止むを得ざる時は胃のところに布巾か蒔蓐でも温め、指の先
で鳩尾のところを強く押し芥子泥を紙に厚く伸ばして張ると其効能は著るしいもの
である、夫れから治つたからとて直ぐに大食などしてはいけない、まづなるべく脂
肪、澱粉質のものを禁じ、茶、珈琲、酒等の如き興奮劑は避けねばならぬのであります

下痢を止むる法

問 私(わたくし)は下痢が時々する事がありますが、夫れを止むには如何なる療法が適切でありま
しようか

答 下痢といつても其の病状によつてはそれを止めてよくない事があるからよろしく注意して行かねばならぬが、只今教ゆるのは腸カタルの如き病に就ての法であります。腹部に温濕布をあて、其上からフランネルの様な布を掩ひ、そして其の熱冷むる時は再び元の如くするのである、温濕布は晒布に熱湯に浸し、これを油紙で包んだもの、又腰部に前の如くするも効がある、それから塩を焼いてこれを布に包み、これを其の腹部に充つるも効を奏する、尤も輕症のものならば蒜雜炊に餅を入れて食すれば奇妙に止まるものであります。

●便秘を治する法

問 私は二日間位便通のない事がありますが如何にすれば通じがつかましようか
答 二日間位便通のないものには小豆一合ばかりを煮て砂糖を加へこれを一度に食すればよい、これは小豆の皮が腸の粘膜炎を刺戟するからである、殊に子供など服薬を忌むものは誠に簡便の法であります。

問 同じ便秘でも強くした時などには如何なる療法が適切でありますか
答 其時は到底小豆位では効がありません、極上等のシヤボンを水に溶かし其色の濁色となるを度としこれを肛門よりスポイトで注入すれば忽ち通ずるもので又シヤボンの代りにリスリンを用ふるも効がある、其分量は適宜でよろしい。

●鼻血を止むる法

問 鼻血を止むるには如何なる療法がありますか
答 鼻血は何の原因にせよ、逆上性のものに多い、月經の異常、白血病、心臓病、チブス等は尤も大關係がある、急性に出血するものは患者の頸部を烈しく拳をもつて打てば忽ちにして止まるものである、又眼鼻の間を水で以て冷やすのも効能がある、又仰臥にさせて両手を頭上に揚げさせるのもよい、それから酢を鼻の中に吹き込むこともある、明礬水を新らしひ綿に浸して鼻の孔に入れてもよい、婦人なれば乳房を冷へた布で包むと特効があるものです。

●黄疽の治療法

問 黄疽は如何なるものが原因となつて起るものでしょうか
答 それは肝臓の疾病から起る、症状である、一體この肝臓といふものは消化作用を營むところの大切なる部分で、消化器から這入つて來た物質は肝臓の中で種々なる化學的作用が營まれて、人體の營養に益し、又血液の循環の調節にも關係する機能であるから極めて重要な機管であるが、黄疽の原因は不攝生をして胃腸を害ひ、それから發するのが多いのであるから、まづ消化し易い食物を食するのが一番療法の

近か道であります

問 其療法の近か道とはどんなものでありましようか

答 消化し易い食物とは肉羹汁、冷炙牛、牛乳、果物、野菜等を採り、酒類は勿論、油濃き魚獣の肉、鰻、鮪、豚肉などすべて脂肪質の食物を禁ずるのが肝要であります

●腹膜炎の療法

問 腹膜炎の原因は何病から起るものでありますか教えて下さい

答 されば多く感冒、外傷等から發し、又屢々腸胃、腎臓、子宮等の病から起るものであるが多くの場合は腸チブスが其原因となるやうである、即ち腸チブスから起る鼓膜や又は食傷から腸壁に孔が出来て腹中の不潔物が腹膜内に入り來るために起るもので、この病の症状は始め寒気がさして戦ひつき、腹部に痛みを覺え、熱が高まり舌が乾き、屢々渴を訴へ、そして嘔氣を催ふし、體が甚だしく疲勞衰弱する、又腹部は始めから著るしく膨れ、遂には張りきつて板のやうになり、軽く押しても堪へ難い疼みを覺ゆるに至るものです

問 御蔭さまで其病の原因及び徴候は分かりましたが、其病に對する適切な藥を教えてください

答 この病の療法は何よりも安靜が第一である、そして腹部に氷の罨法を施し、或はハ蛭を貼りつけ、食物はなるべく消化し易い流動物、即ち牛乳、ソップ、赤葡萄酒、鶏卵、氷片等を與へ、熱の高いものにはアンチピリンを用ゐ、又屢々嘔氣のあるものには氷片を與へるか牛乳を氷で冷して與ふるがよい、そして灌腸は猥になりませぬ

●肋膜炎の療法

問 私は肋膜炎をわづらふてまことに難儀する者でありますが其原因は何から起る者でありますか教えて下さい

答 肋膜炎の原因は多く感冒である、この病には大抵感冒が先驅となつて來るものと斷言してよい位であるから風を惹く人は大に注意しなければなりません、次に肺炎であるこれも多くの場合感冒が原因となつて顯はるゝものである、尙レウマチス、外傷等から來る事もあるが飲食の不攝生から來ることも極めて多いものである

問 私は此病をわづらひましてから、あまりつらいので、種々と同病の御方に問ふて見ましたか、同じ肋膜炎でも病体のかわりしものがありますか、それは何んの爲でありますましようか

答 御尤もなる御尋ねであります、いかにも御尋ねの通り同じ肋膜炎の中にも乾性、滲出性、化膿性の三種があります、乾性といふのは呼吸する度毎に胸がひどく痛んで

呼吸がひつつく様な音がする、滲出性のものは悪寒が初まつて熱が高まる、呼吸が苦しくなる、脈搏が頻繁になる、食欲が減ずるといふ様な工合で、随分劇しい苦痛を感じるもので其の滲出液の爲めに心臓又は肝臓の位置さへも轉ずることすらあり第三種の化膿性に至つては質が甚だよろしくない方で、病状は滲出性よりも更に悪性のものであります

問 御蔭さまで性質が三種に分れてあるといふ事はよく了解致しました、然れば其三種の療法はいかゝのたしますれば宜しいものでありますか教えて下さい

答 されば性質が三種に分れてある以上は療法に至つても又おのゝ異なる事は勿論であるが、まづいづれにしても臥床に就いて身體を安静にし、胸部に氷罨法をするのである、そして乾性のものはフランネル又は通常の手拭で胸部を固く纏ひ、滲出性のものは水のない乾性とは異つて肋膜腔に水の溜るものであるから、薬で以てそれを散らしてしまはねばならぬ、即ち發汗させる性質のものであるからサルチルサン曹達五分を水に溶かして用ひ發汗させると共に吸收催進薬を用ひて時々衣類を替へさせるのである、更に化膿性となると症状が一層重く、膿を持つのであるから滲出性のやうに薬で散らしてしまふ譯には行かない、故にこれは是非共外科手術を待たなければならぬ、即ち局部を切開して悉く其膿を押し出すのである、只注意すべき

問 は外科手術と聞くと誰しもあまり進まない様であるが、此際姑息の考を起しては取返しのつかぬ事になるから醫師が局所に針を刺して水を検査し若し不幸にして化膿性である事が確定したならば一刻も早く名醫の手術を乞はねばならぬのでありますこの肋膜炎につきまして病後の攝生といたしましては、何か、しろとに分りやすき心得ごとでもありませんか、御尋ねいたしとう御坐ります

答 病後の攝生として注意すべき事はこの病は、頗る頑固な病氣であるから容易に全治し難いもので一寸素人眼には全快したやうに見えてもまた再發する事がある、故に病後は勉めて攝生を守り、暴飲暴食は勿論過激な労働や無理な仕事をする事を避け、滋養物をたへず攝取し、感冒にかゝらぬ様注意し、運動も適宜にして只管身體の健康を圖らねばならぬ、そして成可くは氣候の温暖か空氣の清朗なる海岸に轉地療養をするがよい、殊に化膿性で手術したものは是非とも海上の空氣を吸はねばならぬ實驗上これは極めて有効の事でありす

● 肺病と肋膜の關係

問 肺病と肋膜炎との關係を教えてください

答 肺病と肋膜炎とは密接の關係があつて、肋膜炎から、肺結核に變じたり、肺の結核

菌から肋膜炎となるものが多い、けれども肋膜炎を初期に見て適當の處置をなし、これを全治した上でよく身体の營養を勉めたならば肺結核を免れる事が出来る。いづれにしても肋膜炎から肺病には罹り易いものであるから治療攝生を大切にしよう。によつては職業を變へる必要があるかも知れませんが、肋膜炎に罹つた婦人が醫効を奏して全治し、其後二三年も経過し別に異状もなかつたならば、結婚しても差支はないが、妊娠は聊か危険な方でこれが爲めに舊痾再發の恐れがないともいへない、また本人の營業上子供が生れたらば母親から離して別室に置かねばなりません。

● 腦充血の療法

問 私に腦充血でほとんど難儀して居るものですが全快の方法教えて下さい
 答 腦充血の原因はいろいろあるが、多くは鬱血といつて腦の血行が妨げられ頭部に血の鬱したもので、肺病、心臓病、感冒等より發するものもあり、又積血といつて腦に血液が餘分に流入して起るものである、例令ば長途の歩行、登山等によつて心悸亢進する時或は腦膜炎、營業障害、暴酒、胃病、便秘等より發し、或は月經、閉止より起る事もある、その徴候は顔が赤くなり、目が充血して眸は縮少し、耳鳴、頭痛を發し、睡眠は不安となり、時としては精神錯亂する事もある、俗に逆上といふのであります。

問 御蔭さまで其原因はよくわかりましたが何卒其療法を教えてください
 答 療法はまづその原因に逆つて、それを除かねばならぬが、急性に起るものはなるべく閑靜な室に枕を高くして臥させ、なるべく室内を暗くして頭部と心臓のところに氷嚢を宛て、手足を温かに包み、或は芥子泥、又は芥子湯を用ゐ、下劑を與へるか又は食鹽水の灌腸をなし、或は多血性のものには一時血を瀉る法もあるが、それ等は容易に行ふべきものではありません。

● 腦貧血の療法

問 腦充血の原因は何から起りますか教えて下さい
 答 原因は極端なる精神の感動、營養の不良、慢性の下痢、大なる出血、産後の疲勞、授乳の期の長きもの等は腦貧血を誘ひ易いものである、これ等すべて腦の血液が乏しくなるによつて起る病で、顔面蒼白となり、冷汗を流し、卒倒して人事不省に陥り甚だしきは其儘死に至るものもあるが、手當よくすれば、數分乃至二三十分間で恢復することが出来ます。

問 腦貧血に對する療法を知らせていたゞきたう御座りますか

答 療法は第一に原因を除き血量の恢復を謀るに勉むるのが肝要であるが、急性貧血を起して卒倒したものは頭部を低く足部を高くして平臥せしめ、衣帯を解き、胸を緩くして新鮮なる空氣に觸れしめる時自然に覺醒するものである、若し醒め難い時は頭部、胸部に冷水を注ぎ、アンモニヤ水を嗅がせ、羽毛を鼻の孔に入れて刺戟し葡萄酒、ブランデー等を服ませるがよい、其他興奮劑を以て皮下注射を施し、横隔膜神経に電氣を通じ人工呼吸法を行ひ、場合によりては輸血法、食塩水注射法を試むるもよい、殊に手術、或は負傷等で大出血をした時又は産婦の出血等で腦貧血を起した者などにはこの法によつて一時の危急を救ふことがある、又慢性貧血には原因を除いて後、營養物を多量に食し、鐵劑、健胃劑等を與ふるがよろしくあります

●頭痛の療法

答 頭痛の原因は何から起りますか
頭痛の原因は血液の循環が不調子になつて、腦中に鬱血するか、又は不足するかに依るものである、多くは平素胃腸に故障ある人、又子宮内に障害を起した時に著るしく神経に感じ、逆上して頭痛を起すことが多い、又急性のものは恰も腦充血のごとく、眩暈して卒倒することがあります
これが療法はいかにしたら宜しいでしょうか
療法はいろいろあるが、急に來たものは氷嚢又は冷水を手拭に浸して頭部、經部を

●心臓病の療法

問 心臓病なる者は何から起るものですか
答 これは過激の勞動をしたり、又は非常の心配、乃至諸種の競争等が原因となるもので通常は呼吸の困難を感じ、咯痰を出し、胃に痛みを覺え、心悸亢進し、皮膚青白となり、容易に全治せぬものである、其上酒を飲み過ぎるか又は劇しい勞作をするると往々心臓麻痺を來して落命する事がある、つまり平素攝生を守らず、暴飲暴食して身を傷むの結果である、故に一旦この病氣に襲はれたときは精神を安泰にし極めて新鮮な大氣の中に呼吸して刺戟性の飲食物を禁じ、運動を中止し便通をよくし専ら靜養せねばならぬ、療法の概略をいへば、患者は成可徐かに臥し、雜念を去らねばならぬ、若し心悸亢進せば左の乳の下に氷嚢を戴せ、脈搏が急であるか、緩であるかに注意する、此際若し冷汗を流したり呼吸微弱の徴候でもあると、早速醫師の診察を受けるがよい、心臓病は左程藥劑の効能はない、成可規則正しい生活をなし動悸を高むる様の動作を避け新鮮なる空氣を吸ひ飲食を適宜になし、酒と煙草は全

く禁じ、温泉場等で静かに療養するがよい、食物は刺戟性のものは一切禁じ、茶、コーヒー、煙草、酒等は勿論、脂肪過多の肉類も成可避け、常に胃腸を疲勞せしめない様に輕きものを少食し交接を禁じ、喜怒哀樂の感情に支配されぬ様萬事放棄して吞氣にしてゐなければなりません

膀胱カタルの療法

問 私の友人に膀胱カタルで難儀して居る方がありますが如何なる病いの者ですか
答 膀胱カタルにも急性と慢性とがあります、急性は寒中足腰を冷やしたり、感冒に罹つたり熱病、痲病、酒類の過飲等から起る物である、症状は初に戰慄を起し、心氣不快を覚え、仕事に懶く、體温は次第に上昇し、膀胱の邊に強い壓迫を受けるやうな氣がして時々痛みを感じるけれども初めは左程の事はなく、段々日が経つに隨つて劇しく痛みを覚え、尿道に痛みを發し、小便が烈しく通じて其都度痛みを起すばかりでなく、歩行も又頗る困難で到底我慢の出來ぬやうになるものであります

問 答

之れには如何なる療法が適切でありますか
療法はまづなるべく滋養分の多い流動性、即ち牛乳、鶏卵肉汁の如きものを取り、食鹽や香辛料のごとき物は決して食へてはなりません、且つ身體は出來る丈け安靜にして運動を避くる事が肝要である、内服薬としてわ鞣酸一グラムに白糖三グラム

を混和しこれを十二包として一日六回として二日に分服し、服薬中は勉めて温浴を取り、専ら腹部を温める必要がある、安臥しつゝある間でも温石、湯タンポの類で腹部を温むれば頗る効驗がある、又慢性の方は急性と大差はないけれども、急性よりずつと薬で服薬中には殆んど痛苦を感じない位のものもあるが、服薬は愈性症のものを用ゐてよろしく、且つ酒類は勿論、茶、珈琲の如きものは絶対に避けなければならぬ、又治療法として膀胱の洗滌法を行ふ必要もあるがこれは醫師の手を借りなければ出來ない事である

レウマチスの療法

問 男女共十五才以上三十才の壯年に多く發する病で春秋の二季に發作する、この病の特効薬ともいふべきは、サリチルサン、及びサリチルサンソーダの二薬である、甲は散薬若しくは丸薬として服用し、乙は水薬として用ふる、甲は一日の量五グラムを、度とし、三回に用ふる、乙は一日の量六グラムを度とし是れ又三回に分服する、この薬は通常薬であるから醫師の處方に依らず薬店によつて調劑を乞ふ事も出來る

レウマチスにはこの薬を用ふれば奏効著るしく四肢の關節疼痛甚だしいものでも半日ほどで痛が止まり、起居が出來るやうになる、故にこの薬を絶へず用ふる時は再

發を防ぐのみならず又寒胃に罹ることもない、右の外温浴蒸氣浴も又効能がある、關節の痛みには患部に氷嚢を貼し、ヨジムチンキ、又は樟腦精を塗布する時は又痛疼を去る事がある尤もこれを塗る時は其上に繃帯を施し、衣服の接せざるやうにする事が肝要である、其他轉地して海濱の地に遊ぶ事も又服薬以上の効がある、そして専ら飲食物に注意し淡泊な食品を取り酒を禁じ、室内を温暖にし、戸障子の孔から寒風の襲はぬ様にせねばならぬのである

● 痔疾の療法

問 私の兄さんは長年痔で難儀して烈しい時などは、男なきになかぬばかりに苦しんでをられます、誠にそばで見ると目がきのとくでなりません、能き療法があれば教えて下さい

答 それは御氣の毒な次第であります、大體、この痔とゆふ病は多く美食家又は安座する人に多い、婦人には多く経産婦が罹り易いのである療法はまづ局部に發熱するものには氷嚢法を施す、これは大いに痛みを去るものである、又蜂蜜を煮て其のや、冷却するを待つて小指大の棒状となし之を肛門に挿入するときは大いに効能がある併しこれ等は根本治療といふ譯にはゆかないから、なるべく飲食物に注意し、牛肉、雞肉、其他脂肪性の食物、刺戟性の食物はこれを禁じ、成可く淡泊にして消化よき

物を取り便秘を避け常に緩下剤を用ふる様にするがよし、其下剤は硫黄花二分、大黃二分、重酒石酸カリ六分の割合で調合した物を連服し其用量は一回が半茶匙宛で一日二回位でよろしい、又鑛泉に浴するの効もある、歩行は尤も禁すべきものである、是れは多少摩擦して熱を發する恐れがあるから概して痔疾は寒冷を恐れるものであるから、股引などを着て冷氣に弱れないやうにせねばならぬ、近頃は薬店で痔帶といふものを賣つてゐるから試みてよろしい

● 育兒問答

問 生後何ヶ月経てば種痘して可なりや

答 普通は生後三ヶ月経つてからで、時期は四月、五月、十月、十一月が最もよい月ですしかし天然痘の流行地ならば、生れた翌くる日でも種痘しなければいけません

問 發育の程度によつて多少違ひますが、普通は牛乳ならば水を五分の一ぐらい交せて

一回に一合づゝ三時間か四時間おきにお與へなさい、しかし夜間は一二回に限ります牛乳と一緒に輕燒重湯葛湯などを與へても差支ありません

問 六歳の男子、血色素尿病に罹る、治るか
血色素尿病の原因はいろいろあつて療治はそれぞれ原因によつて違ひますから診察

しなければ答へられません

問 七歳の女子、常は健全なり一度痰に血交れり

答 血は肺からも胃からも気管支からも出ることがあります一應醫師について原因をお

確かめなさい

問 一昨年十一月生れの女子茶飯を好む

答 茶飯は消化し難いものですから粥にお改めなさい

問 乳飲兒ある母親の食物を問ふ

答 酒類の外は大抵差支ありません、しかし薬は必ず醫者の許しなく飲んではいけませ

ん品によつては乳に交るからです

問 一昨年生れの男子、一度風をひきてより夜間咳に苦しみ時々乳をもとすことあり

答 風をひいた時氣管カタルを起しそれから治らぬからでせう

問 生後一ケ年四ヶ月の女兒、母乳の代りには

答 ミルクより牛乳がよし、牛乳を一日に三合ぐらい、その他に粥、魚肉などをお與へ

なさい、ミルクならば十六倍にして同様

問 昨年九月生の女兒、夜分發熱し、時々青き便あり

答 齒の生へるために發熱することもあります、青き便をする所を見れば胃が悪いか

問 も知れませんが、醫師の診斷を要す
本年五月生れの男子、一晝夜に一回乃至二回便通あり、普通なりや、小兒の體温は

幾度が普通なりや

問 便通は普通です、病的ではありません、體温は三十七度まで

問 三月生れの男子、入浴させれば引つけるやうになる

答 入浴は厭がるのを強制してはいけません、漸次に習慣をつけなさい

問 五歳の男子一日に便通三四回あり

答 健康體にても三四回あることあり、便の色さへよければ御心配に及びません

問 生後一年の男子、頸部に腫物出來、全癒後根殘る

答 腺病質でせう沃度フェラトールゼを一日三回、食後に服用させなさい

問 頭に白雲の如きもの出づ、顔にソバカス出づ

答 水楊酸亞鉛華軟膏をお塗りなさい

問 三歳の女子、舌の中央に苔の如きもの出づ

答 百倍の重曹水でうがひなさい

問 三歳の女兒、耳だれにて臭氣甚だし、醫師は切開せねば治らずといふ、切開しても

よきか

答 手術の必要なれば何日にも差支ありません、又平素は硼酸水でよく拭いてから、

水楊酸オリーブ油を點入して、綿で塞いでお置きなさい捨て、置いてはいけません

問 鮫肌にはリゾール水よしとのこと、分量は

答 一回に十五ぐらゐづ、浴槽に入れ、二三ヶ月入浴しなさい

問 生後二ヶ月の男子、顔一面にブツブツ出来、痂皮のやうになりました

答 濕疹です、オリーブ油で痂皮をとつてから、亞鉛華軟膏をお塗りなさい、臍の大きくなるのわ、指尖で収めて、絆創膏をはつてお置きなさい

産時と産後の心得

●産時の心得

問 腹の痛み出した時の注意は如何にいたしたならば宜しうでしようか

問 月が満ちて、腹が痛み出すのは、子宮の收縮するためで、さはつて見ると堅く感じ

ますが、これは胎児の分娩する徴候でありますから、床の上に油紙かゴム布を敷き

その上に座蒲團を敷いて、心を静め身體も亦静めて床に就き、痛みを強くならぬ中

に、早く産婆を呼んでそれ／＼手當を施すがよろしくあります、又水液の出るとき

も血液の出る時も、即刻産婆を呼ぶのが肝要であります、初産の方や經驗ある家人

の居ない家では、特に産婆を早く呼ぶことに注意しなくてはなりません、産婆の來

るが遅くれた爲に、産婦の安心を失ひ、大害を惹起すことは珍らしくありません、

即ち産婆の來るのが遅れて灌腸の出來ないために、お産が苦しいばかりでなく、場

合によつては出口が擴がりにくいので、大傷を受けることがあります、よし至極安

産で、安安と産むことが出来ましても、産婆の來やうが遅れると、消毒などが間に

合いませんので、産後に苦しむことがありますから、なんでも産婆を早く呼ぶの

が一番肝腎であります、又満月にならぬ中にお腹が痛んで子宮が堅くなつたり、乳

が少しづつ、出たりするのわ流産か早産の徴候ですから、速かに専門醫に見て頂くこ

とに致したいものです

●産後母體の心得

問 をりもの、注意はどうすれば宜しうでしようか

答 産後惡露が多量に過ぎるか、或は不快を感じる時は、速かに専門醫の診察を受ける

がよいのであります、又惡露のために、着物や蒲團を汚し易いものですから、これ

を防ぐには局部に丁字帯を施し、腹部にわ腸の位置の變らぬために、三脚帯を用ゐ

ることに致したいです、これは一寸手数のやうに思はれますが、たゞ一巾の切れを

●産後生児扱ひの心得

問 小供の臥かし方の注意を教えて下さい

答 世間には、よく仰向けに臥かす方がありますが、これは宜くありません。横向きに臥かすに限り、又母と同じ床に臥かすのは悪くありますから、別に臥かす習慣をつけたいものです

問 大小便の注意を聞かして下さい

答 大小便には最も氣をつけて襦袢の汚れました時には直ぐに取替へるやうに致しませんとカソレが出来ればかりでなく寢小便などの悪い癖がつくものです、又冬などは襦袢を暖かにして置いて取替へるやうに致しませんと、それがために腸胃病を起すことがありますから、よく注意することであり、それから、襦袢は浴衣地のやうな柔らかい切れか、糊氣のない、白木綿が一番宜しいと存じます

救急手當法

人工呼吸術

此術は氣息絶したる者に再び呼吸を起さしむる術なり其の法先づ患者を仰臥せしめ頭

部及び上身を稍高くし一人は布片を以て舌を包み口外に引出して保有し或は初めて引出し細長の布片の中央を舌上に當て頂後頭に布端締結して舌を固定するも可なり 頭邊に跪き左右の肘を把へ舉上して頭上に至り以て空氣をして肺中に流入せしむること第壹圖の如くす此間は大約二秒時間三と緩呼する間にして更に手臂を下げ胸側に至らしめて壓迫し第貳圖且つ其時舌を保持する所の一人は一手の拳をして心窩を押して肺中の空氣を呼出せしめ此の時も亦一二三を緩呼する間持續する此の如くすること頻回にして終に呼吸回復するに及んで被衾を被ひ布片を以て全身を摩擦しメイトル武蘭を少量等分の冷水に和して與ふべし又メイトル武蘭手許になきときは燒酎にても善ろし

第一圖



第二圖



凍返の手當

全身凍返せるものを救ふには直に之を暖むることなく先づ冷かなる室に入れ衣服を脱

し雪或は冷水にて皮膚の全部を摩擦し身軀柔軟となるを待つて人工呼吸法を施し初め薄衣より漸次重襲し初めて室を暖むべし

打撲の手當

毆打轉落等之に屬し其部位は壓迫繃帶を施さば漏血腫脹を防ぐを得、尙冷器法を施す

震蕩の手當

打撲衝突等によりて人事不省嘔吐腹痛等起さば頭部を低くし劇臭(安母尼亞等)を嗅がし嚔下し能ふ時は少量の酒を飲ましめ醫師を待つ可し

觸輪の手當

骨傷に種々有り骨折は猥りに其整復を試る勿れ之れ單純骨折をして複雑骨折たらしむの虞あればなり唯だ兩骨折端の部不整にして絶へず皮肉を刺戟する時は少しく之を引

關節捻挫の手當

き伸ばして直線状となし副木を當て軽く繃帶すべし
關節を捻挫せる時は同部を直ちに冷水に浴するか或は冷器法を施し疼痛去らば按摩をなすをよしとす

脱臼の手當

其整復は専門家に有らざれば難きが故に冷器法を施し醫師を待つ可し

溺水の手當

水中より之を援ひ出し衣服を緩開し或は脱して仰臥せしめ口内に泥濘あるものは拭ひ去り背下に枕を入れて胸部を高くし舌を引き出して水を吐かし人工呼吸法を施す可し

縊首の手當

縊首をせるものを救ふには先づ其身軀を抱持して後索條を斷ち人工呼吸法を施す可し

中毒の手當

毒物を服したるものを救ふには先づ其第一着手として嘔吐を催すべし其法多量の微温湯を飲ましめ羽毛若しくは手指にて咽頭を刺戟すれば多くは其目的を達す若し嘔吐せざる時は尙温茶を與ふべし又中毒作用によりて人事不省嚔下不能ならば頭部に冷器法を施し温茶の灌腸をなすを可とす其他腸部は芥子泥を貼用すべし

毒創の手當

毒創は主として咬創にして多くは四肢に之を受く斯る時は直に創の上部を緊縛し創口は放置して流血せしむること數分時の後繃帶を緩めて冷器法を施し若し毒已に軀内に

入室の手當

入るの恐れあらば多量の温茶を服すべし
但し蝮蛇の毒は人の胃中に入りては害をなさず故に其の咬創は口にて強く吸ふも宜し

窒息の手當

呼吸すべからざる瓦斯を吸入し或は酸素の缺乏によりて起るものにして古井土坑等に入り其中に蓄積せる炭酸の爲に窒息するもの多し斯る場合は適當の方法に依て換氣をなしたる後之を放出し冷涼の場所に安臥せしめ衣服を緩開し冷水を面部及胸部に灌注して人工呼吸法を施すべし

止血法

一、小出血に於ては昇汞ガーゼを貼し繃帯を施して足れりと雖も稍々大なる者に在ては

第三圖



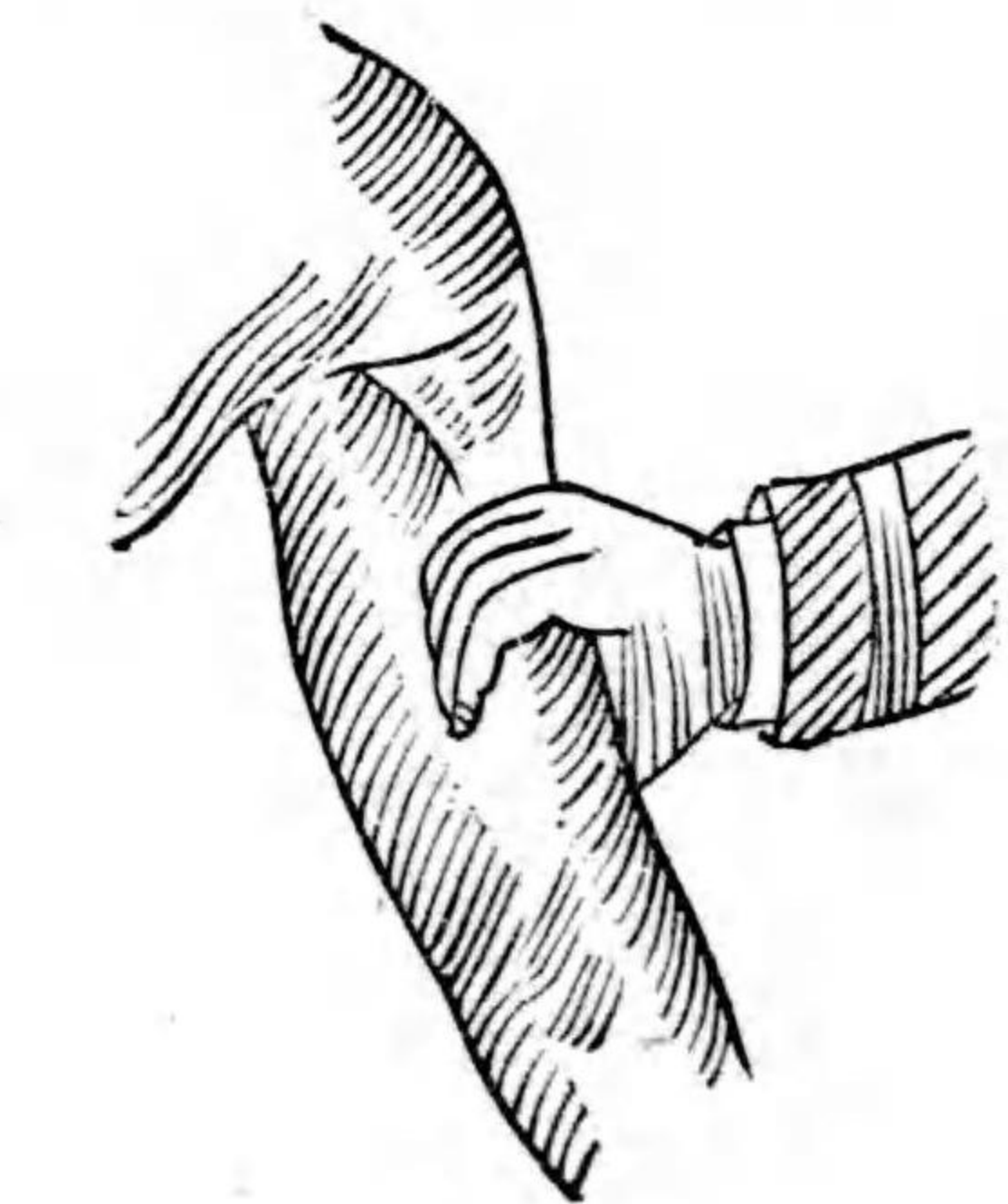
第四圖



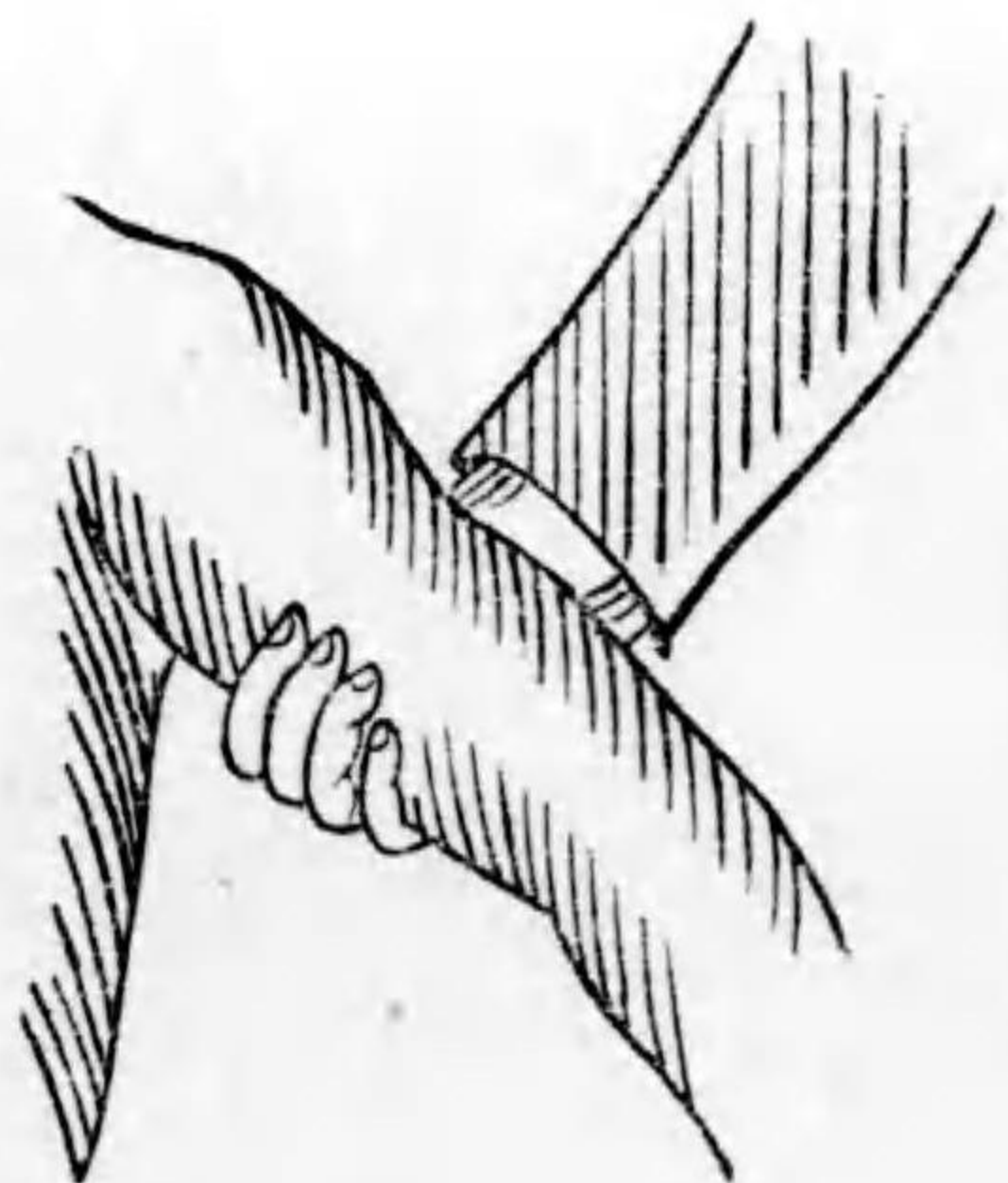
此の法効なし先づ局部を強屈して血管を壓閉せしむべし例へば腕關節の上部に於て出血するときは第三圖の如く強く屈曲するが如き是れなり

二、大出血には壓迫法と稱する更に一層確實なる法を行ふ可し此法二あり一つは直接壓迫法にして布片を固く巻き或は布片にて小石を包み之れを創口に當て繃帯を行ふ可

第五圖



第六圖



し二は間接壓迫法にして血管の幹を手指或は器械にて強壓して止むるなり即ち頭部及頸部の出血に於ては創傷の下部四肢に在ては其の上部を通過する血管を壓するを通法とす但し深部の骨面に向て壓迫するを要す

三、總て間接壓迫法を施すには出血の部位に隨而一定の部位を撰ざる可らず則左の如し(イ)下肢の出血に在ては第四圖の如く鼠蹊の中央の下部に搏動する脈管を骨上に壓迫すべし

(ロ) 上肢の出血に在ては腋窩と肘との間に於て第五圖の如く上膊の内面淺溝なす處に四肢を當て手掌を上膊の前面に當て強く堀り或は第六圖の如く手掌を上膊の後面より致すも可なり

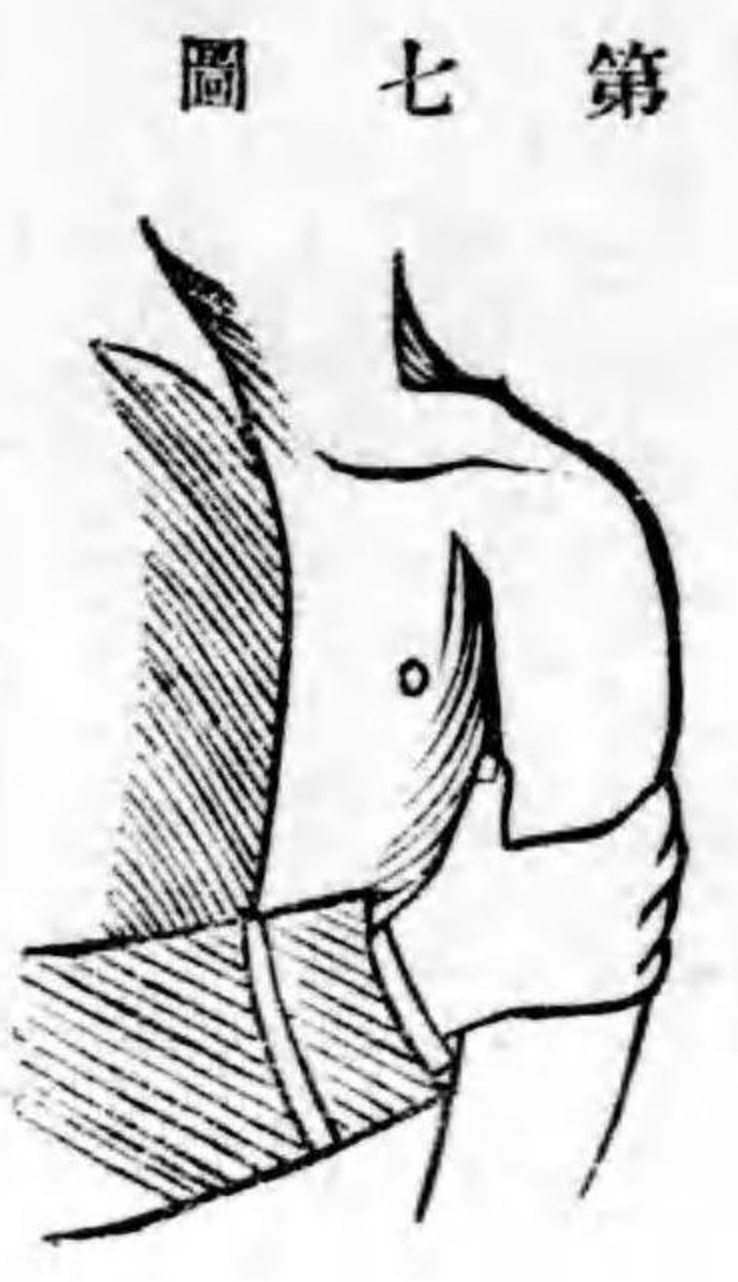


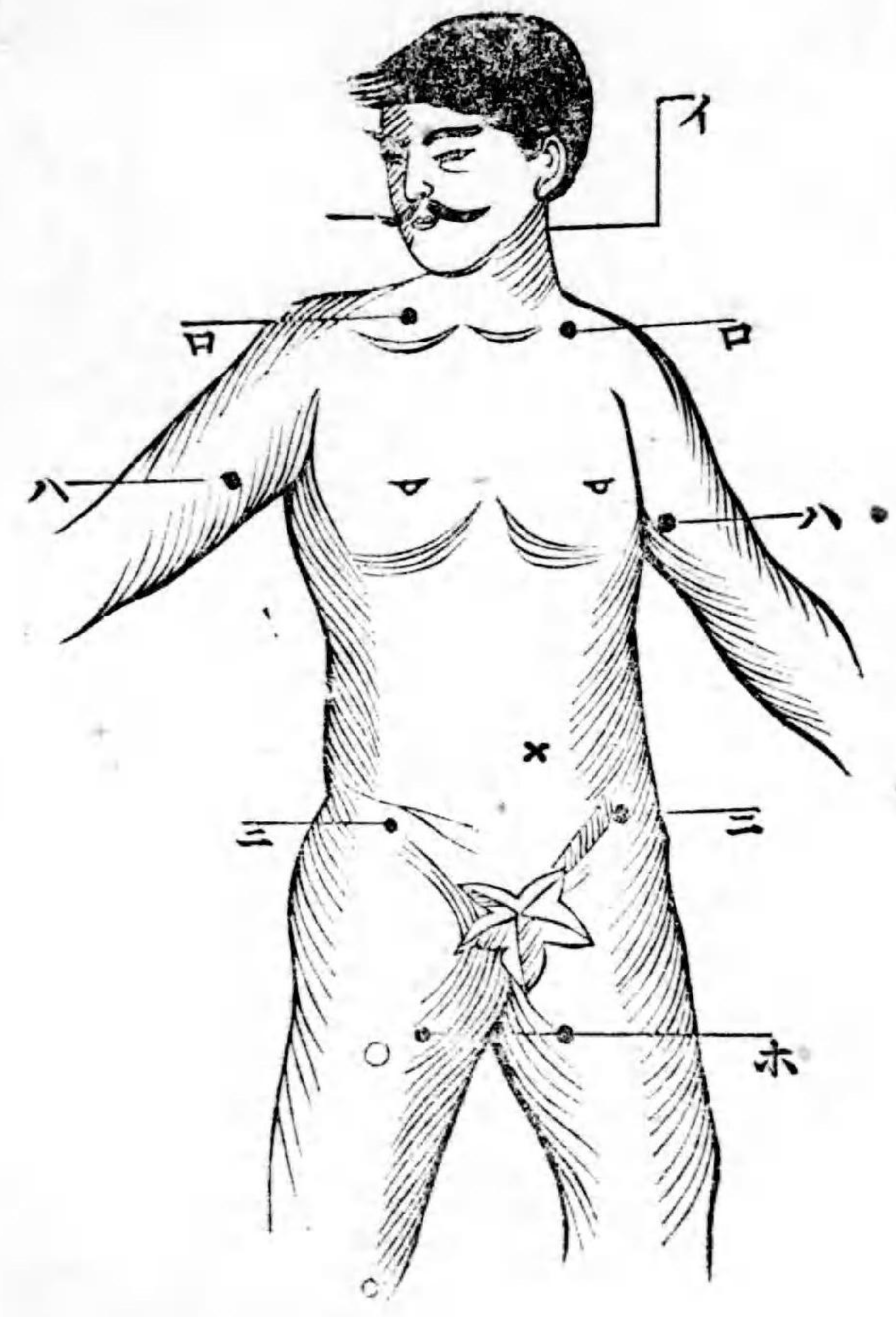
圖 八 第



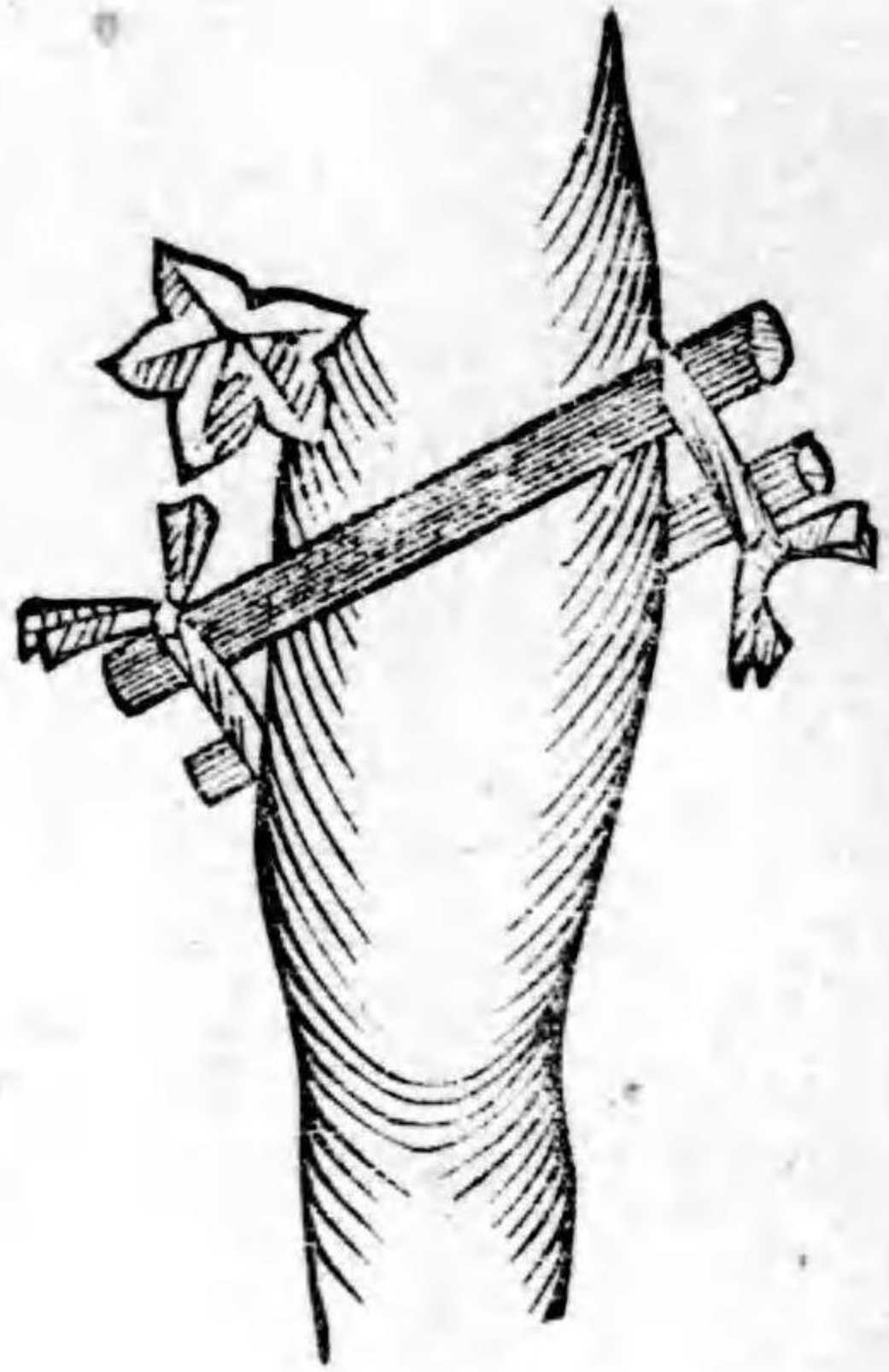
(ハ) 腋窩の出血には頸と胸とに於ける間にある鎖骨と稱する骨の上部則ち鎖骨上窩に於て稍々下方に向ひ第七圖の如く
 (ニ) 面部殊に口圍の出血には下顎骨角第八圖との稍々前方を壓す可し
 四、指頭を以て壓するは其効頗る確實なりと雖も傷者を運搬するには止血管(則ちゴムの管)或は繃帶を用ゆるを優れりとす

止血管は永く之れを用ゆべからず直ちに醫師の許へ運搬し手術を受く可し
 壓迫すべき部分は左の第九圖を見らる可し
 壓迫すべき部位

圖 九 第



- イ 下顎動脈
- ロ 鎖骨下動脈
- ハ 上膊動脈
- ニ 鼠蹊動脈
- ホ 大眼脈動



攝生法

例言

本文は獨逸フーフェランド博士の長書法に憑りて著述したるものにして本文の誦讀は殊に世の青年男女諸氏に薦む

●生殖力に付ての注意

放逸なる娯樂は最も謹む可し

(一) 娯樂は人間の生活力を減殺す凡そ何者か吾人の生活力の總量を減殺する上に於て彼の新らしき生物の

最初の生命の閃光となりかねて又我等の血液に取りては最も貴き香油とも云ふ可き瓦斯物質(精液)の浪費に過ぐるものはれあらむ

(二) 吾人の肉體を形勢する纖維と臓器に必須する堅牢と彈力の二性を衰弱消耗すること淫樂の禍害より甚だしきはなし

(三) 速く生命の頽敗は招致すると又此淫樂より甚だしきはなし

(四) 淫樂は又心身の補遺復活の障害たることも甚だしきはなし

而して更に此處に尤も懼る可きは危險の埋伏せることを警告せざる可からず

則ち花柳病を受くることは是なり

尙左の件を嚴守せらる可し

(一) 戀愛の肉慾を取るには心身共に充分成熟の時期を待たざる可からず則ち男子は滿二十歳後女子は滿十八歳後たるを要す

(二) 戀愛の肉慾は頻繁に且つ強度に行ふべからず彼の疲勞倦怠食欲の不振等は明かに之れが過度の害毒を表示せるものなり

(三) 頻々として對手を更換し或は又香料火酒の如き刺戟劑を用ひ以て過度の興奮を起さしむる不可なり

(四) 心身の疲勞せる時或は消化作用の旺盛なる時は必ず淫樂を恣にす可からず

(五) 配偶以外の交接は其の對者更換するが爲めに常に新らしき刺戟を起し容易く過度の娯樂に耽けるの弊あり然るに配偶者において更に斯の如きことなし

(六) 早期肉慾的戀愛に陥るの弊あり従つて恐る可き短壽の原因となる可し

●腦力使用の過度に付ての注意

幼少の時より腦力の使用を始むる場合凡そ年少の時代に於ては僅少なる精神的勞作も甚だしき禍害を招くものなり七才以前に於て精神的勞作を與ふるは畢竟不自然なる状態を招き却て只心身の發達をも粗害するに過ぎず

●飲料の注意

(一) 食物に於て人命を短縮する第一のものは其の量なり飲食の過度が生命に及ばす禍害は先づ消化力の疲勞によりて衰弱を招くこと腸管に於て不良を起し悪液を生ずること屢々不消化の爲め常に下劑を用ゆることは是なり

(二) 夏期の禁食物

松たけ、なまごめ、セメン圓、さつまいも、かづの子、くまのゐ、なすび、ふぐ、かに、氷水、うなぎ、むめぼし、きくな、からし、あずき、

右之同食注意すべし

●老年者の注意

(一) 老人は自然的に暖氣に乏し故に外部より温暖を取る可し則ち暖かなる衣服居室臥床食物を與へ爲し能ふべくんば氣候の暖なる土地に住ましむ可し

(二) 食物は消化し易きを撰みて固形體よりは流動物を宜とす而して營養物に富み滋養ある野菜良き麥酒及び最良なる葡萄酒等は老人にとりて最も効ある良品なり

(三) 微温浴は最も老人に適する良法なり之れに由りて自然の体温を増し皮膚の發散作用を勤め全身の乾燥硬固を加ふるを和らぐるを得るなり

(四) 諸種の激しき下劑を用ゆること發汗する迄に体を熱することを避よ及房事等を慎むことを要す是れ皆な活力を消耗し体の乾燥を増すものなれば也

(五) 老齡に赴くに隨ひ益々その生活法に一定の秩序を立つるを要す飲食睡眠運動休息業務等は一定の時間を計る可し此の如き生活の規則的秩序及び習慣は老年にありては最も効力ある衛生法也

(六) 身体の運動は必要なれども決して過激に亘り疲勞を招く可からず寧ろ受動的運動たとへば車行又は全身の摩擦等をよしとす全身に摩擦の時は良き刺激性の香油を用ひて全身硬固を和らげ皮膚の柔軟を保つことを計るは大効あり身体の激動は殊に注意して避けざる可からず之れは死を招く第一の原因なり

(七) 過激なる感情の發作は老年者には死因を爲すことあるを以て切に是れを謹まざる可からず家庭の和樂しき過去の追想未來の及び死後に對する希望等に由りて情緒の快活安怡を計るは非常に老年者の健康に益あり又小兒少年と交りて其無邪氣なる遊戲天真の舉動により心神を慰むるは自身も若返る一種の手段なり新なる計畫企圖事業(危險不安なることを伴ふものは不可なれども)等に由りて未來に對し希望を懷くは生理上長壽に貢獻する事大なる者なり

うすき襦袢はまとふとも

生きて起つこそおかしけれ

大正四年九月一日印刷
大正四年九月五日發行

定價金參拾錢

現籍地 現住所 神戸市兵庫永澤町三丁目大神宮角

著 者 小 西 信 良

大阪市南區松屋町三十九番地

編輯者 兼 印刷發行

榎 本 松 之 助

發 行 所 濟 生 館 本 部

不 許 轉 載

內務省
濟

不許
複製

定 價
一 冊
金 參 拾 錢

終